


風しんぶん



自転車で見えてくるいつもと違うまちの姿

まちづくりフォーラム 

自転車のまちづくり ～人と環境にやさしく～ 第2弾！

8月23日(土)、久しぶりの雨で夏の猛暑がやや和らいだこの日、静岡文化芸術大学にてまちづくりフォーラムを開催しました。



...自転車解体中。

今回のテーマは「自転車のまちづくり」～人と環境にやさしく～第2弾！自転車で変わる世界観をテーマに、環境問題だけでなく、自転車に乗ることによる精神的効果、人間の内面にも着目した討論がされました。前回の反響にお答えして、参加者のフリートークの機会を設け、参加者同士の意見交換が行われました。自転車に乗ることで



分解された自転車

気づく季節の変化、浜松市の道路状況の問題点、自転車が走りやすいまちづくりの目標や提案についてなど、日ごろから自転車を利用して気づいたことで自由な討論が行われました。また、現在作成している浜松南区の自転車マップの発表や意見交換、静岡文化芸術大学の学生による自転車の解体作業も行われ、自転車屋さんを使うたくさんの道具や、一つ一つの部品に分解された自転車を見ることもでき、来場者の注目を集めていました。

「自転車で変わる世界観 そこから発信したくなるもの」
白鳥和也さん(自転車文学研究室主宰、小説家・エッセイスト)

話題提供として、自転車で日本各地を旅した小説家、エッセイストとしても活躍する、自転車文学研究所主宰の白鳥和也さんより『自転車で変わる世界観』- そこから発信したくなるもの-と題してお話しをいただきました。京都議定書から環境問題への関心の高まりもあり、都市部での自転車の利用が増加しました。東京と新宿の直線距離は約6kmで、浜松駅から遠州鉄道のさぎの宮駅までの距離とほぼ同じです。電車やバスなどを使っていると、自分の体を使っていないので、距離感覚があいまいで、都市を実際の大きさよりも大きく感じてしまいます。自転車に乗ることで、自分の感覚で都市の大きさを感じることができ、いつもと違ったまちの姿が見え、自分の体を使うことの楽しさの発見にもつながります。

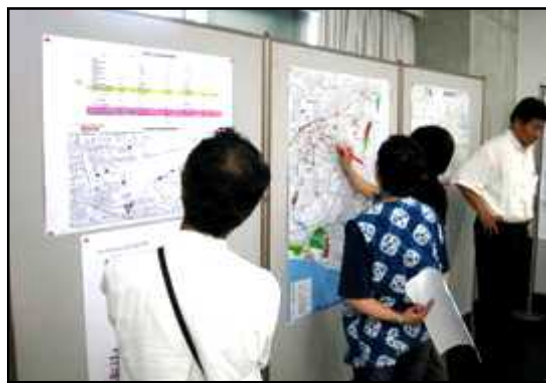


現代は精神が病む時代であり、自転車に乗ることで、無事目的地に着くこと、元気に自転車に乗れること、自分の体を使った後の食事の美味しさなど、普段の生活で当たり前だと思っていたことが、実は幸せなことなのだと気づくことができます。人は大人になるにつれて、より速く、より遠くへ行ける乗り物に乗り換えていきますが、なぜここで、自転車がブームになったのでしょうか。それは現代が、あえて遠くへ行くのではなく、自分の内側に向かうべき時代にあるためでした。

現代は精神が病む時代であり、自転車に乗ることで、無事目的地に着くこと、元気に自転車に乗れること、自分の体を使った後の食事の美味しさなど、普段の生活で当たり前だと思っていたことが、実は幸せなことなのだと気づくことができます。人は大人になるにつれて、より速く、より遠くへ行ける乗り物に乗り換えていきますが、なぜここで、自転車がブームになったのでしょうか。それは現代が、あえて遠くへ行くのではなく、自分の内側に向かうべき時代にあるためでした。

自転車は、「無記」であり、どこにも属さないため、人の使い方しだいで、様々な姿に変化します。競技として使うスポーツとしての自転車、通勤や通学のための交通手段としての自転車、そして、景色を楽しんだり、自分の内側を見つめなおしたりする、旅としての自転車…。そのような自転車の本質を白鳥さんは、「自転車は人間について考えさせるもの」と考えているようで、「環境問題にしても、まちづくりにしても、自転車を楽しむことが重要なのです」と話されました。

フリートークでは、浜松市を中心に普段の生活の中で自転車に乗っていて気づいたこと、問題だと感じたことを話し合いました。自転車に乗っていると、季節の変化に気づくことができ、中には「自転車に乗って一句作っています！」という方もいらっしゃいました。自転車で通勤すると、その日一日、調子が良くなるという方が多く、職場の同僚の方にも自転車通勤を勧めている方もいました。また、右側通行をしている人など自転車に乗っている人のマナーの問題や、歩道や横断歩道のない道路、駅前や街なか駐輪スペースがないことなど、現状のまちの問題点や、改善点についても話し合いました。歩いた時に見えてくるまちと、自転車に乗ることで見えてくるまちの違いを考え、それぞれが安全で快適に楽しめるまちづくりが必要です。



普段の生活で気づいたことを地図に書き込みます

ボッチャとは?! 見て、聞いて、体験しました♪

まちづくり楽校

身体障がい者スポーツ“ボッチャ”を体験しよう!

2008年、北京パラリンピックで日本が初の出場権を獲得した **ボッチャ** を8月10日(日)にみんなで学び、体験しました。

まず、ボッチャ倶楽部 cool の鈴木さんと選手の方4名にお話をいただきました。ボッチャとの出会いや活動をしていくうえで得た友人やサポーター、そして体力・身体能力に頼らなくても勝負ができること、試合に出場したときの緊張感、練習に励み友人とともに頑張っていることなど、話を聞かせていただきました。皆さん、自らが熱中して取り組むことのできるボッチャの存在によって充実した日々を送っているそうです。

実際の体験では選手の方との試合も行なわれ、参加者にとっては初めて見、プレーするボッチャに質問やアドバイスが飛び交いました。参加者の方々がプレイヤーとして競技をしたのはもちろんのこと、審判の体験も行なわれ、ファインプレーには拍手と歓声が上がるといった盛り上がりを見せていました。

cool の活動は一般の方の目に触れる機会が少ないとのことでしたが、今回のような活動を通し、ボッチャの存在、楽しさをより多くの人に知ってもらい、支援・参加者を増やすとともに、これを通じて市民同士のふれあいの場をつくることに意義があると思われまます。

笑顔で終わりを迎えた今回のまちづくり楽校。

白いボールが的球のジャックボールです。これにより多くの持ち球を近づけることで得点を争います。



写真中央に写るこの緩やかな曲線のものは、介助者の協力のもとプレーをするためのランプスという道具です。

健常者・障がい者に分け隔てのない有意義な会となりました。



第73回

「銅鏡が語る、古の遠州」

7月23日(水)



お話しは・・・

植松 勇介さん

(静岡産業大学非常勤講師)

昨年の7月に好評を博し、今回はその第2弾としてお話しをして頂きました。銅鏡といっても銅 100%で出来ている訳ではなく、銅の他に錫(すず)、鉛、亜鉛などが入って出来ているそうです。今回は橘逸勢所持鏡(三ヶ日町)・天方神伝世鏡(森町)・八幡神社伝世興国四年明鏡(春野町)の3枚の鏡について特徴や時代背景の解説、工芸史を専門とされている植松先生の見解などをお話しして頂きました。今回、初の写真公開となった春野町の銅鏡には『興国四年八幡若宮』と銘文が描かれています。南北朝時代の南朝のものは偽物も多く、本物は大変希少なものだそうです。聴講されていた方の中には、この銅鏡のお話しを特に聞きたくて参加された方もいらっしゃいました。また、次回を熱望される聴講者の方も多数いらっしゃいました。

第74回

「みんなの意見を活かした住環境づくり」

8月28日(木)

東京工業大学大学院に在学中の遠山元気さんが行なった多段階アンケート調査についてお話しいただきました。名古屋市白壁地域の近代の町並みを保存し、住民参加の住環境づくりを目指し、複数回のアンケート調査を実施しました。アンケートの結果を次のアンケートに取り入れ、住民の意見を反映し、段階を踏みながら目標とするまちの姿を導き出しました。発表では、白壁地域の門や塀など様々な町並みの写真をスクリーンに写し出し、白壁地域の閑静な町並みの魅力についても学びました。参加者は、多段階アンケート調査という新しい住民参加の手法に興味を持って聞き入っていました。



お話しは・・・

遠山 元気さん

(東京工業大学大学院)

第75回

「学生が取り組む日本ブラジル交流年」

9月1日(月)



お話しは・・・

伊藤菜摘さん、大石彩子さん
菅谷直美さん(CSN浜松)

今年は、日本人のブラジル移民が始まって100年の『日伯交流年』です。市内の大学の学生が運営する学生NPO団体・CSN 浜松さんは『Brazillio』(ブラジろう)と題した企画を行いました。これはブラジルに興味を持ってもらうためにブラジル映画を上映したり、ブラジルのお菓子を食べながらお喋りをする企画で、来場者の方にも好評を頂いたそうです。

浜松は、多くのブラジル国籍者が住む都市なので、この機会にブラジルに興味を持ってほしいと、第二回・三回と続くこの企画を更に楽しめるものにしたそうです。


★ ★ ★ ★ ★ **これからの夜楽塾** ★ ★ ★ ★ ★

にこにこ **11/28 (金)**

第77回 ひまわり2525プロジェクト 19:00~20:30

にこにこ **お話しは・・・ひまわり2525プロジェクト メンバー**

できる事からまちづくりに関わりたい。浜松をもっと元気にしたい。そんな想いで2006年に2人から始まった“ひまわり2525プロジェクト。20代、30代のまったくのど素人たちが集まり知恵を絞り、汗を流しながら、3年かかって完成した大きなひまわり畑は…。今年は3000人以上の方がひまわりの花を見に来てくれました。そんな活動のこれまでとこれからについて。



◆ ◆ ◆ 地域のまちづくり ◆ ◆ ◆

人と地域を
応援します！



自分たちの『まち』のこと、自分たちで考え、進めていこう！

まちづくりセンターでは、より快適で住みやすいまちにするため、地域住民が自ら考え、話し合い、実現する「地域のまちづくり」を応援しています。そんな地域のまちづくりを紹介します。

広沢二丁目3部地区

広沢二丁目3部地区は、周辺に学校、公民館、神社・仏閣、家康の散歩道等がある文教地区です。

まちづくりを考えるきっかけとなったのは、地区内にあった旧市長公舎が解体された後に、残された緑は一体どうなるのだろう、現在の落ち着いた住環境を守る為には何が出来るのだろう、子供や孫たちの将来のために、安心して暮らせるまちにするにはどうしたら良いのだろう、という思いに至ったことでした。

自分たちのまちのことについて、自分たちで考えていこうと活動を始め、平成 19年 10月 12日に浜松市より、広沢二丁目3部まちづくり協議会として認定されました。

まずは「まちを知る」ために、まち歩き(H19.11.25)をして良い所や改善したい所を出し合いました。歩いて分かったことは、庭木や緑が多く、日当たりも良い静かな住宅街という良い印象だけでなく、坂道や狭い道路など危ない箇所がある他にも、街路樹、街路灯、公園、商店など「無いもの」が多くあるということでした。住民を対象に実施されたまちづくりアンケート(H20.2 実施)でも、教育環境が整った文教地区、緑が多いまち、歴史や文化の香るまちといった印象の反面、生活の利便性や公園など子育て環境に満足しておらず、防災・防犯面においても不安を感じているとの回答が多く寄せられました。

このような住民の皆さんの思いを受けて、将来的に安心して暮らせる住みよいまちになるよう、「広沢二丁目3部まちづくり協議会」はこれからも皆で勉強しながら地区計画による『まちのルール』づくりについて取り組んでいくことでしょう。

H20.6.1 旧市長公舎跡地
での植物観察会
鈴木満帆さん(植物学者)
から約120種類の花木と
約50種類の樹木の説明
を受けながら、楽しく散策
しました。



H19.11.25 まち歩き &
まとめワークショップの様子



H20.4.12
先進地事例視察
蜷塚二区の壁面後退の一例

天竜区二俣

「活力ある二俣再生プロジェクト」

～ 歴史資産や自然環境を活かして、まちの再生を！

二俣は、北遠地域と浜松市街地を結ぶ中山間地域であり、かつては天竜木材や繭の取引場所として繁栄しました。やがて時代と共に産業や社会構造が変化して、人口の減少や住民の高齢化が進み、今ではすっかり賑わいが消えつつあります。しかし、まちには当時の繁栄の面影を残す古い旅館や大小のお蔵、昭和初期の洋館など歴史的な建造物や街並みがひっそりと残されています。また、鳥羽山や二俣城址の里山に囲まれて町の中を二俣川が流れる景観は、まちと自然が調和して美しく、どこか懐かしい静かな情景です。

地元の方々は、昨年度“景観”をキーワードに半年間のワークショップを開催して、二俣の良さすばらしさを再認識しました。まちづくり団体『二俣みがきの会』がその成果をまとめ、さらに発展させて提案した「活力ある二俣再生プロジェクト」が、内閣府の『地方の元気再生事業』として採択されました。その取り組みを紹介します。

目指す再生の姿

歴史と川と里山が調和した美しい景観をつくり、住む人も訪れる人も居心地の良さを感じられるまちを目指します。また後背の北遠山間地域と連携した新たな魅力のある特産品ショップなどを展開して、以下5つの取組により「**生きている街並み**」の再生を進めていきます。

取組1：保存すべき建物の調査

歴史的建築物の調査を行なって評価をしていきます。その価値を再認識し、また古い建物の管理や保全のための手立てを所有者と共に検討します。

取組2：北遠アンテナショップづくり

新しい特産品を開発して、空き店舗やお蔵を活用したアンテナショップを実験的に開業します。

取組3：路地を活かした回遊ルートづくり

整備が進む二俣川沿いの散策ルートや狭い路地を活かして、歴史的な建物や景観スポットを巡る回遊ルートづくりを検討します。

取組4：竹林整備と広葉樹木植生調査

市街地を取り囲む里山に放置された竹林の整備をすすめていきます。また広葉樹木へ転換していくための植生調査を行います。

取組5：二俣まちづくり再生マネジメント

それぞれの取組みが連携して進められるように調整し、またホームページやニュースレターでこの活動を広く地元住民や一般市民へ情報発信していきます。

北遠アンテナショップ『天』が、11月2日～12月14日の土・日曜日限定（全15日間）で二俣クローバー通り商店街にOPENし、山の特産物や木工作品・手づくり作品を週替わりで販売します。この秋、北遠の味覚や古い佇まいの街並みをお目当てに、ぜひ二俣へ足をはこんでみて下さい。

二俣みがきの会 とは

商店会や自治会・おかみさん会などそれぞれの分野で活動する団体が連携して結成。活動テーマは「二俣の街に眠る宝物を再発見し、みがき、育てて、より豊かに暮らし続ける二俣のまちを創る。」現在会員数は約40名、二俣を愛する会員募集中！



古い建物やお蔵がたくさん残っています



杉や雑木の里山が竹藪に替りつつあります



二俣川には歩いて渡れる楽しい仕掛けが

地方の元気再生事業 とは

地方の実情に応じた先導的な地域活動など、地域の創意工夫による自主的・持続的な取組について、立ち上がり段階から国の支援を受けることができる制度。20年度は全国1186件の提案の中から120件が採択された。調査や社会実験などソフト事業が支援対象。

サロン 展示

「遠州自然展」 8/1(金)～8/10(日)



植物の写真や標本、まつぼっくりなどの自然素材で作ったしめ縄飾りなどから遠州の自然の豊かさを感じとることができました。

8/3の説明会では一つ一つの詳しい説明に加え、山アジサイのお茶やふきのお漬物など山の恵みを満喫することもできました。

遠州自然研究会さんは、遠州地域の自然を調査・研究し、保護する活動をしています。

《主催》遠州自然研究会

ユネスコアジア太平洋写真コンテスト入選作品パネル展 自然と暮らし

8/13(水)～9/1(月)

1976年から続いている写真コンテストの1998年入賞作品のパネル展を行いました。

今回のテーマは「自然と暮らし」。西はイランから、東はニュージーランドまで。人々の日常生活の中の楽しさ、大変さなど写真を通じて表現されていました。豊かな国に暮らしていると胸が痛む写真も、現地で暮らしている人々にとっては普段の生活の一部であり、極当たり前のこと。写真をみた後、何か考えさせられるものがありました。

《主催》世界遺産の会



捨て猫を減らそう！ ichio world & 猫写真展

9/3(水)～9/29(月)



きり絵作家 ichio さんの作品は絵本のような柔らかく、優しい絵で心を癒してくれました。猫自慢写真展では、可愛い猫ちゃんの写真がいっぱいでした。これは自慢したくなるのも納得。猫ちゃんへの愛が伝わってくる素敵な写真でした。写真家・中川こうじさんの【のらねこ～小さな命の写真展～】は写真と文で綴られている作品なのですが、思わず涙が出そうになってしまいました。

《主催》捨て犬！捨て猫！ゼロの会

ミュージーラル展示しています！



7月20日～9月30日

7月20日(日)に、浜松NPOネットワークセンター(N-Pocket)会員である、木好師クラブの斎藤さんの強力なサポートを得て、N-Pocket スタッフがまちづくりセンターにミュージーラル(縦3メートル、横11メートルの大壁画)を展示していました。2003年、外国籍の高校生達、江之島高校美術部の学生達、文芸大の学生や一般人まで多くの人達が関わって、いかにも情熱的な南米の絵柄と色遣いで、外国籍の子ども達の苦難と希望を表現し、社会に彼らの思いをメッセージとして伝えるために制作したものです。

★ ★ 関係団体からのお知らせ ★ ★

第2回 しずおかスポーツフェスティバル 武術太極拳 西部地域大会

11月2日(日) 9:00~16:30

静岡県西部地域に居住する武術太極拳愛好家が日頃の練習成果を発表する他、講習会、模範演武、全員による集団演武等が繰り広げられます。日頃参加されたことのない方、興味を持っている方、誰でも来て見てください。

見学自由です。

場 所 可美公園総合センター体育館
主 催 (財)静岡県体育協会
実 行 浜松市武術太極拳連盟



県営遠州灘海浜公園リサイクルフリーマーケット

【場 所】 県営遠州灘海浜公園
 (静岡県浜松市南区江之島町 / 球技場と木製遊具のある公園)
【内 容】 広い公園内には、球技場、木製遊具、サイクル広場、自然生態観察園、売店など様々な施設があり、四季折々の自然が楽しめます。出店は開催日の5日前までにご連絡ください。出店料1,800円。
【主 催】 浜松文化フォーラム TEL・FAX053-471-8538

10/12(日)・10/25(土)
11/9(日)・11/22(土)
12/7(日)・12/20(土)

DV当事者と支援者のためのコミュニケーションワーク(全3回)

DV(ドメスティックバイオレンス)当事者・支援者の、より良いコミュニケーションのためのワークショップです。是非ご参加ください。参加費無料

第1回 自分の長所を語る・相手の長所を聴く《10/22(水)》 全回共通・19:00~20:00
 第2回 自分に気付くワーク《11/26(水)》
 第3回 「他人と私」他者との関係のとり方の特徴に気付く《平成21年1月28日(水)》



会 場 浜松まちづくりセンター 第3研修室
 (〒430-0929 浜松市中区中央一丁目13番3号)
主 催: 浜松市
主 管: S&Sネットワーク
http://www.geocities.jp/s_snet2008/index.html

申し込み・問い合わせ先 053-474-9766 (FAX随時・TEL第1・3木曜日13時~16時)
 メールアドレス s_snet2008@yahoo.co.jp

友愛セール

衣替えの季節となりました。浜松友の家では恒例の友愛セールを行います。会員が持ち寄った中古衣料、雑貨、贈答品、手作りの焼き菓子など係が検品した確かな品揃えです。どうぞ皆様お越しください。



【場 所】 浜松友の家 浜松市中区富塚町849 053-473-7941

【交 通】 遠鉄バス 館山寺線 おかめ坂又は富塚 下車

〃 鶴見富塚循環 うさぎ橋 下車

P有り 友の家ほか...係がご案内します。

10月14日(火)
10:30~11:30



浜松まつり会館前広場フリーマーケット

★ 開 催 日 時 ★

10月19日(日)
11月9日(日)
12月14日(日)
10:00~14:00

【出店募集数】 50店 (県西部在住の方のみ)

【出店料】 手持ち出店 1,500円 ・ 車出店 2,000円

予約制(当日出店は不可です!)

【問 合 せ 先】 浜松リサイクルネットワーク 090-6597-5488

※雨天の場合は中止です



わたしが会った「世界遺産」写真&パネル展

国内外の世界遺産を訪れ、その自然、遺跡、景観、文化などに「！」し、撮影した、わたしが会った“世界遺産写真展”を開催します。第4回となる今年も大勢の方から出品をいただきました。様々な国の世界遺産、写真の撮り方で表情も変わってきます。皆さま、是非ご来場ください。

撮影者の
会場交流会も
予定しています

10月8日(水)～10月20日(月)
9:00～21:30(最終日は17:00まで)
浜松まちづくりセンター1階サロンにて

**火曜日
休館**



昨年、写真展の風景

朝鮮通信使パネル展

私たちのお隣の国、朝鮮とは友好の時と不幸な時がありました。浜松市に縁の深い家康は、その関係の転換を計ったひとりです。通信使一行は国王の親書を携えた300～500人もの大使節団、通信史の行列が通った街道の町々は上から下まで大騒ぎでした。写真や衣装を通して、お互いの文化を尊重し合い文化交流の重要性を伝えます。



朝鮮通信史パネル展：10月1日(水)～13日(月) まちづくりセンター2階
パネル、衣装展：10月22日(水)～27日(土) まちづくりセンター1階サロン
9:00～21:30(火曜日はお休みです。)

☆☆センターからのお知らせ☆☆

まっぼっくりが新しくなります！

旧市町村ごとで異なっていたスポーツ・文化予約システムを統合し、全市域約120施設の予約や抽選申し込みができるようになります。

現在お持ちのカードは、平成21年1月20日まではご利用いただけます。それ以降はお使いいただけません。

新しいカードは1月21日よりご利用いただけます。また、新しいカードの配布は11月1日～の予定です。

詳しくは、窓口にてお尋ねください。

新しい予約システムを利用するためには、現在登録しているすべての団体・個人の方に再登録をしていただき、新しいカードをお持ちいただく必要があります。

☆☆☆インターンシップ生紹介☆☆☆

今年も静岡文化芸術大学の学生さん4名が実習生として、それぞれ10日間の実習を行いました。



まちづくりの現場に出掛けたり、センターで行われる行事に参加させていただいたり、自分の目で、耳で、体で学ぶことの楽しさと大切さを学びました。百聞は一見に如かず、何事も挑戦だ！こちらで学ばせていただいたことを今後活かしていきたいと思えます。ありがとうございました。



浜松まちづくりセンター通信「はままつ風しんぶん」

発行：浜松まちづくりセンター(平成20年9月)

430-0929 浜松市中区中央1-13-3

(財)浜松まちづくり公社(指定管理者)

☎053-457-2616 FAX053-457-2617

メール:h-m-c@msi.biglobe.ne.jp HP:http://hamamatsu-machi.jp/center/

